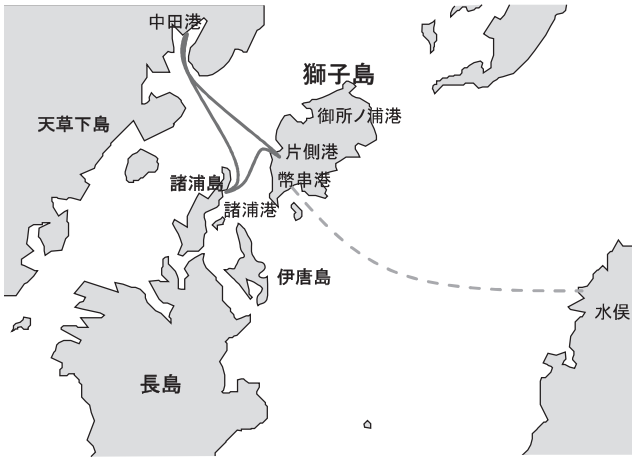
4　地域別離島の現況

(1) 長島地域

ア　概況

本地域は鹿児島県の西北部に位置し，長島本島のほか諸浦島，獅子島，伊唐島の有人離島４島から成っていたが，昭和49年４月の黒之瀬戸大橋の完成により昭和51年３月31日に長島本島及び諸浦島が離島振興地域の指定を解除された。また，伊唐島には平成８年８月２日に伊唐大橋が開通し，平成10年４月１日に離島振興地域の指定が解除された。このため，現在は，獅子島(17.05k㎡)１島だけが指定され，行政区域は長島町に属している。



イ　自然

獅子島は平地に乏しく七郎山（393m）を最高峰とする丘陵山岳地形であり，山の斜面には甘夏みかん等の樹園地が見られる。

気候は温暖であるが，夏秋季の台風や冬季の季節風の影響を受けやすい。

ウ　沿革

今から約1億5千万年前隆起した島で，一番高い七郎山の頂上からも貝の化石が発見されている。かつては肥後国に属していたが，永禄８年（1565年）に島津氏が領主の獅子谷七郎を討って領有した。後に，獅子島は島津藩の鹿の大牧場となり，数百頭の鹿が各所の海岸に群れをなしていたという。

現在の人口は，平成27年の国勢調査において，689人であり，人口の動向を見ると平成７年1,082人，平成12年981人,平成17年851人，平成22年757人と減少を続け，平成７年以降10％程度の減少率で推移している。

エ　交通・通信

本土との交通体系については，本地域（獅子島片側）と諸浦（長島）・中田（天草）間にフェリーによる定期航路，本地域（獅子島幣串）と水俣（熊本県）間に旅客船による定期航路が運航されている。

航路現況　　（平成30年４月１日現在）

航路（又は区間）	航路距離	所要時間	運行回数	船舶名	総ﾄﾝ数(t)	旅客定員
天草～長島	12.7km	諸浦～片側：20分 中田～片側：30分	７便／日	フェリー ロザリオ	330	120人
幣串～水俣	18.5km	30分	３便／日	ししじま	19	62人

島内交通については，平成18年3月から平成24年3月までは，町営の獅子島乗合バス，スクールバス，診療所バスをそれぞれ運行していたが，平成25年4月から，獅子島の幼稚園・小中学校の統合に伴い，スクールバスの車両を増車し，地域住民も利用できる混乗型の町営のスクールバス（獅子島バス）として運行している。

港湾・漁港については，片側港のほか４港湾が統合された獅子島港と幣串漁港がある。３港ともこれまで，船舶の安全停泊，安全な離接岸を図るための整備が進められている。中でも片側港は，獅子島の拠点港であり，フェリーの寄港港として重要な役割を果たしている。

道路については，一周林道と中央林道が開通しており基幹道路となっているが，幅員が狭く，急カーブ

箇所が多いうえ，法面の風化が激しいことから，改良が進められている。

情報通信基盤については，本地域には光ファイバは敷設されておらず，本土とは無線により接続されている。また，全域が電話回線を利用したＩＳＤＮのサービス提供エリアとなっており，ＡＤＳＬサービスは提供されていないが，衛星ブロードバンドによるサービスを利用することができる。

携帯電話については，ほぼ全域がサービスエリアとなっており，居住地域等では利用可能となっている。

テレビについては，地上波テレビ放送のデジタル化に伴い，既存の共聴施設の改修も終了し，難視聴は解消されている。

郵便は，獅子島郵便局が片側にあるが集配業務等は行っていない。新聞については，長島本島の販売所のほか，水俣，米ノ津の販売所から配達されており，配達時刻は，午前８時ごろである。

オ　社会環境

（ア）水道・電気

水道については，全戸に普及している。既設の施設も老朽化が進んでいるため，抜本的な対策を行う必要がある。

電力については，本土から海底ケーブルにより送電され全地域に供給されている。

（イ）廃棄物処理

ごみについては，委託業者が収集し，北薩広域行政事務組合の環境センターで処理している。し尿については，許可業者により汲み取りが行われ，同組合の衛生センターによって最終処分を行っている。家庭からの雑排水が環境悪化の一因であることから，幣串地区については漁業集落排水施設が運用されており，他地域においては，合併処理浄化槽整備を推進し，水質浄化に努めている。

（ウ）医療

医療については，へき地診療所が整備され，町立国保診療所から週２回，医師派遣が行われている。救急医療については，医師が常駐していないため，県及び自衛隊のヘリコプター等により，県本土の医療機関へ搬送している。急患の発生地区によっては，熊本県（水俣市，天草市）の医療機関へ搬送する場合もある。

健康管理体制については，保健所が長島町と連携を取りながら健康相談や各種健診等のほか，健康管理システムによる保健指導を積極的に行っている。

各種健診等については，医師，保健師等が島に渡り，地区の集会所を利用して実施している。

（エ）妊婦への支援等

獅子島においては常駐の産科医がいないことから，妊婦が島外で健康診査を受診又は出産に備え事前待機をしなければならない場合等，その交通費・宿泊費等に要する経費の一部助成を行っている。

（オ）福祉

老年人口比率は，平成12年30.4％，平成17年37.6％，平成22年37.6％.平成27年41.3％と上昇している。

福祉施設としては，利用者数や地理的条件等から本地域には設置されていないが，長島町全体では，特別養護老人ホーム，養護老人ホーム，通所介護事業所が設置されている。

また，在宅の要介護者等からの総合的な相談に応じる地域包括支援センターも設置されている。

（カ）教育

本地域には，公立の幼稚園１園，小学校１校，中学校１校が設置されており，スクールバスが運行されている。学校施設については，平成25年度から小学校２校を１校に統合することに伴い，平成24年度に校舎を中学校敷地内に新設した。

また，高等学校はなく，生徒は本土の学校に進学している。

社会教育活動については，多様なニーズに対応して各種講座・学級等の開設や移動図書館車による図書の貸出し等が行われている。

カ　産業

（ア）第１次産業

農業については，本地域は耕地が少ないため傾斜地を利用した甘夏みかんを中心とする果樹類の栽培が盛んだが，農家の経営規模は零細な状態にある。また，温暖な気候を利用して早出しばれいしょの生産も行われている。

農業後継者の不足，農地の遊休化が進んでいるが，災害を未然に防止する土砂崩壊防止全施設等の整備により，優良農地の確保が図られつつある。

林業については，広葉樹林を主体とする森林が多いが，スギ，ヒノキの人工林も造成されており，この地域の水源かん養等，公益面で果たしている役割は大きい。

水産業については，静穏海域が多いことや水温が高いなど恵まれた自然条件下にあるため，ブリ，ヒトエグサ等の養殖業が盛んであるほか，マダイ，イボダイ等を対象としたごち網漁業等の漁船漁業が行われている。就業状況については，若年就業者の減少，高齢化が進行しつつある。流通の面では，各自の漁船で長島本島等の市場に出荷しており，気象条件で大きな影響を受ける場合がある。水産資源は減少傾向にあり，魚価の低迷等の課題も依然として残されている。

（イ）第２次産業

第２次産業については，港湾，漁港など公共事業による建設業が主であったが，年々，就業者数は減少傾向にある。

（ウ）第３次産業

第３次産業については，商業のほか，恵まれた自然などの資源を生かした観光関連作業が主である。

観光については，化石発掘体験や，毎年２月上旬に開催される「獅子島ウォーク」など，豊かな自然に触れる体験型観光の取組も進められている。

(2) 桂島地域

ア　概況

本地域は県本土の北部野口漁港(出水市)から北約2.5kmに位置する桂島(面積0.33k㎡，周囲2.7km)１島からなっており，行政区域は出水市に属している。

イ　自然

桂島は島全体が急傾斜をなしており，平坦地がほとんどない。気候は温暖であるが，夏秋季の台風や冬季の季節風の影響を強く受ける。

ウ　沿革

この島に人が住むようになったのはかなり古く，寛政年間のことで，天草島から３戸が移住したことに始まり，明治34年には小学校の分校が設立された。

昭和30年に人口170人を記録したが，その後の人口流出により大幅に減少し，昭和55年の62人の後，昭和60年は22人と激減し，平成７年国勢調査では26人，平成12年国勢調査では32人とやや持ち直したものの，平成17年国勢調査では18人，平成22年国勢調査では13人，平成27年国勢調査では8人と減少している。

エ　交通・通信

本地域は出水市本土との結びつきが強いが，定期航路はなく，本土との往来は，ほとんどの世帯が所有する自家用漁船に依存しており，最も近い野口漁港まで10分程度である。

集落が１箇所にまとまっていることや，急斜面，崖地という地形上の制約もあり，自動車の利用できる道路はなく，自動車は利用されていない。

情報通信基盤については，本地域には光ファイバは敷設されておらず，光回線は利用できないが，電話回線の利用は可能であり，ＡＤＳＬサービスは提供されていないものの，全域が電話回線を利用したＩＳＤＮのサービス提供エリアとなっている。また，衛星ブロードバンドによるサービスを利用することができる。

携帯電話については，近隣の基地局がカバーしており，利用可能となっている。

テレビについては，地上波テレビ放送のデジタル化に伴う「新たな難視」地区は発生していない。

郵便，新聞については，桂島まで配達されておらず，住民が本土の郵便局まで受け取りに出向いている。

オ　社会環境

（ア）水道・電気

水道については，本土からの海底送水により安定供給が図られている。

電気については，海底ケーブルにより送電され供給されている。

（イ）廃棄物処理

ごみについては，島内処理施設がなく，可燃物は自家処理しているが，不燃物及びリサイクル品は，市の委託による漁船で本土の収集所まで運搬し，北薩広域行政事務組合の環境センターで処理している。

し尿については，各世帯に浄化槽が設置され，浄化槽汚泥は，同組合の衛生センターまで運搬し，処理している。

（ウ）医療

医療については，本地域に医療機関がないため，住民は本土（出水市）の医療機関を利用している。救急医療については，救急患者発生の際は，県及び自衛隊のヘリコプター等により，県本土の医療機関へ搬送している。

健康管理体制については，保健所による訪問指導が行われている。各種健診等については，出水市本土で受診している。

（エ）福祉

老年人口比率は，平成２年に7.1％，平成７年に０％，平成12年に6.3％，平成17年に22.2％，平成22年に53.8％，平成27年に62.5％と上昇している。

福祉施設としては，利用者数や地理的条件等から本地域には設置されていないが，出水市全体では，特別養護老人ホーム，養護老人ホーム，介護老人保健施設，軽費老人ホーム，老人デイサービスセンター等が設置されている。

また，在宅の要介護者等からの総合的な相談に応じる地域包括支援センターも設置されている。

（オ）教育

本地域には，公立の小・中学校の分校が併置されているが，いずれも現在休校中である。

（カ）産業

本地域の基幹産業は水産業であり，イワシ類の稚魚（シラス）を対象とした機船船びき網漁業を中心に，ごち網漁業，刺し網漁業等が営まれている。漁獲物の大半は，出水市本土の名護漁港に水揚げされている。水産資源は減少傾向にあり，魚価の低迷，後継者不足等の課題も依然として残されている。

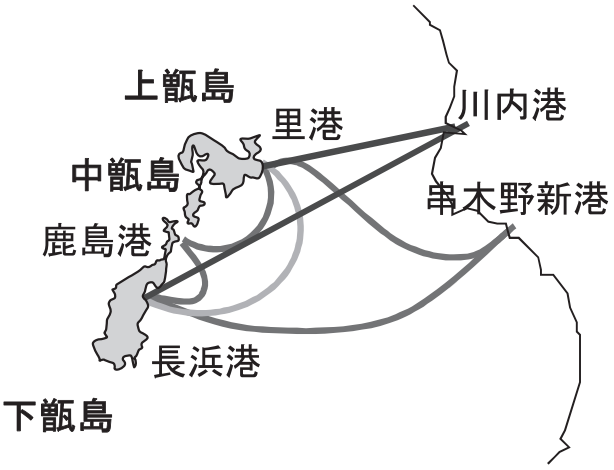
農業については，耕地が少なく，自家用野菜の生産にとどまっている。

観光については，出水市本土に近いという地理的有利性と恵まれた自然環境を有しており，釣りや夏場の海水浴が楽しめる。

(3) 甑島地域

ア　概況

本地域は，鹿児島県本土の西方約30kmの東シナ海海上に，北東から南西の方向に約35kmにわたって位置しており，上甑島（44.20 km²），中甑島(7.28km²)，下甑島(65.56km²)の３島からなっており，行政区域は薩摩川内市に属し，里町，上甑町，鹿島町及び下甑町の各町毎に支所が置かれている。



イ　自然

各島とも地形は急峻で，上甑島は遠目木山(約423m)，中甑島は帽子山(約296m)，下甑島は尾岳(約604m)をそれぞれ最高峰にして，200m以上の山が連なり，平地に乏しい。海岸線は変化に富んでおり，上甑島には砂洲によって形成されたトンボロ地形や潟湖群が，また，特に西側海岸には，奇観を呈した海蝕崖が多く見られ，これらの海岸線を含めた景勝地が評価され，平成27年３月に，国内で57番目となる固定公園（甑島固定公園）に指定された。気候は温暖であるが，夏秋季の台風や冬季の季節風の影響を強く受ける。

ウ　沿革

歴史的には，縄文時代，弥生時代の土器，石器，古墳時代の貝塚等が過去の発掘調査で確認されていることから，古代国家成立以前から人が住んでいたことがうかがわれる。奈良時代以後甑島は，薩摩の国13郡のうちの１部として区画され，甑島隼人の支配下におかれ，承久の乱以後は小川氏，文禄年間からは島津氏によって支配され，明治に至った。その後明治４年，上甑島の全部を上甑村とし，村役場を中甑においた。明治24年には里が上甑村から分村し，村制を施行した。また，鹿島村は昭和24年，下甑村から分村したものである。平成16年10月12日，旧川内市・旧樋脇町・旧入来町・旧東郷町・旧祁答院町の本土側と甑島地域（旧里村・旧上甑村・旧下甑村及び旧鹿島村）が合併し，薩摩川内市となった。

人口は，平成27年の国勢調査では4,719人（上甑島2,174人，中甑島224人，下甑島2,321人）であり，人口の動向をみると平成7年7,926人，平成12年7,220人，平成17年6,206人，平成22年5,576人と減少を続け，減少率は平成２年から平成７年が5.1%，平成７年から平成12年が8.9%，平成12年から平成17年が14.0%，平成17年から平成22年が10.1%，平成22年から平成27年が15.4%となっている。

エ　交通・通信

本土との交通体系については，平成26年４月より薩摩川内市の川内港と結ぶ高速船が新たに就航し，いちき串木野市の串木野新港を結ぶフェリーと２隻体制で運航している。

航路現況　　（平成30年４月１日現在）

航路（又は区間）	航路距離	所要時間	運行回数	船舶名	総ﾄﾝ数(t)	旅客定員
串木野・川内～甑島	１便目 131.2km ２便目 110.4km	長浜～鹿島　：35分 鹿島～里　：45分 里～串木野　：75分 串木野～長浜：100分 長浜～里　：60分	２便／日	フェリー ニューこしき	940	400人
	101.2km	川内～里　：50分 里～長浜　：40分 長浜～川内　：70分	２便／日	高速船甑島	197	200人

島内交通については，平成16年の市町村合併により，旧村単位で運行していた路線バスを薩摩川内市自動車運送事業として統合し,それまで運行のなかった鹿島地域も含め,甑島全地域における市営バスの運行を行っていたが，平成24年からは，バス事業者へ運行を委託し，甑島４地域に不可欠な公共交通機関として,地域住民や観光客等の唯一の交通手段として運行している。

道路については，上甑島の県道桑之浦里港線，下甑島から中甑島を経由して上甑島を結ぶ県道鹿島上甑線及び県道手打藺牟田港線の３路線で南北約51キロメートルを貫く甑島縦貫道を構成しており，この縦貫道から上甑島の北側には県道瀬上里線，下甑島の西側には県道長浜手打港線が延びている。

特に，下甑島と中甑島を陸路で繋ぐ，海上橋梁約1.5キロメートルを含む総延長約5.1キロメートルの藺牟田瀬戸架橋建設事業が平成32年度の供用開始を目指し鋭意整備中であり，島民の永年の悲願であった「甑島はひとつ」への実現が間近に迫っている。

また，手打藺牟田港線については，改良が進んでいるが，下甑島の西側を中心とした道路の中には屈曲箇所や幅員狭小区間などが多く残されており，引き続きそれらの整備が必要とされている。

港湾については，里港ほか３港湾が，漁港については手打漁港ほか９漁港があり，本土(川内港及びいちき串木野市の串木野新港)と甑島とを結ぶ定期船の発着及び日常生活物資，建設資材等の搬入基地として重要な役割を果たしている。

情報通信基盤については，本土と各島間は，市が国の補助事業を活用し，平成20年度にＮＴＴ西日本と共同でループ状に敷設した海底光ケーブルで接続されている。また，島内の公共施設等まで光ファイバが敷設されているが，各戸までは敷設されていない。海底光ケーブル等を敷設したことに伴い，全域がＡＤＳＬのサービス提供地域となったが，電話交換局からの距離が長いことにより，電気信号の減衰のため，本来のＡＤＳＬサービスが提供できない地区もある。本土及び各島間の光ケーブル化に伴い，各島内でも支所や公民館等の公共施設を光ファイバで結ぶ地域公共ネットワークを整備し，全小中学校でのインターネットやテレビ会議システムの利用，双方向による住民サービスの提供を行っている。

携帯電話については，移動通信用鉄塔施設整備事業等の実施により，ほぼ全域がサービスエリアとなっており，居住地域等では利用可能となっている。

テレビについては，地上波テレビ放送のデジタル化に伴う「新たな難視」地区が一部に存在していたが,共聴施設の新設や高性能アンテナの設置により解消されている。

新聞については，朝の高速船で本土から運ばれ，概ね午前中には各家庭に配られている。

オ　社会環境

（ア）水道・電気

水道については，全戸に普及しているが，一部地域では，渇水期における水不足や豪雨時の高濁度水の流入などの問題が生じているほか，施設の老朽化が問題となっている地区もある。このため，新たな水源の確保，施設の増補改良等を行い，水道の安定供給を図る必要がある。

電力については，上甑島にある内燃力発電所より全地域に供給されている。また，里町には風力発電所が実用化されているとともに，旧浦内小学校に設置された太陽光発電と自動車の蓄電池を使用した実証実験施設に繋ぎ，電力調整の実証実験を行っている。

（イ）廃棄物処理

ごみについては，里町・下甑町・鹿島町の焼却施設が休止しており，本土の川内クリーンセンターまで運搬し処理を行っている。

し尿については，上甑島では施設処理を行い、下甑島では川内汚泥再生処理センターまで運搬し処理を行っている。

また，上甑町の中甑・中野地区では公共下水道が，平良地区では漁業集落排水施設が，里町では，農業集落排水施設が運用されている。

鹿島町では地域下水処理施設が，下甑町の片野浦地区及び手打地区では平成23年度から漁業集落排水施設が運用されている。

なお，下甑町の長浜地区では，平成29年度から公共下水道の整備を実施している。その他の未整備地区については，順次合併処理浄化槽の設置を計画している。

（ウ）医療

本地域には，医師が常勤している国保診療所が４施設（うち２施設に歯科診療所を併設）と出張診療所６施設（うち２施設は休診中），単独の歯科診療所１施設が設置されている。その他に民間の医院が１施設ある。

鹿島診療所については，県より自治医科大学卒業医師の派遣を受けるとともに歯科医師については，鹿児島大学医学部より定期的な派遣を受けている。また，特定診療科（眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科）については，鹿児島大学医学部及び県医師会の協力を得て，巡回診療事業を年１回実施している。

島内の診療所等で対応できない重篤な患者については，県及び自衛隊のヘリコプター等により，県本土の医療機関へ搬送している。

健康管理体制については，上甑島と下甑島にそれぞれ２人の保健師を配置しており，各診療所と連携をとりながら，各種健診や保健指導を行っている。

（エ）妊婦への支援等

常駐の産科医がいないことから，妊婦が島外で健康診査を受診又は出産に備え事前待機をしなければならない場合等，その交通費・宿泊費等に要する経費の一部助成を行っている。

（オ）福祉

本地域の高齢化率は，平成27年の国勢調査で45.8%と，県平均29.4%を大きく上回っている。

福祉施設としては，里町に特別養護老人ホーム，グループホーム，デイサービスセンター，生活支援ハウス及び地域包括支援センターのサブセンター等，上甑町に特別養護老人ホーム等，下甑町に養護老人ホーム，グループホーム，特別養護老人ホーム，デイサービスセンター及び地域包括センターのサブセンター等，鹿島町に特別養護老人ホーム及び生活支援ハウス等が設置されている。

（カ）教育

本地域には，公立の幼稚園４園，小学校５校，中学校５校（うち１校休校中）が設置されている。上甑島，下甑島では遠距離通学のためスクールバスが運行されている。また，高等学校はなく，生徒は本土の学校に進学している。

カ　産業

（ア）第１次産業

農業については，各島とも地形が急峻のため，耕地は少なく，点在している。台風や冬場の強い季節風の影響を受けやすい条件のなかで，放牧形態による肉用牛，水稲，焼酎原料用さつまいも，ばれいしょ，たまねぎ，パッションフルーツ，ビワが生産されている。

林業については，地域の77％が森林(森林面積9,023ha)で，ほとんどが天然林であり，このうち椿林は158haに及んでおり，椿の実及びしいたけの特用林産物の生産に取り組んでいる。

本地域の基幹産業である水産業については，イワシ，サバ，ブリ等の回遊魚をはじめ，キビナゴ，瀬魚類，アワビ等の水産資源に恵まれ，県内でも有数な好漁場を有している。静穏な入り江を利用して，クロマグロ，カンパチ等の養殖が行われている。その他，マダイ，ヒラメ，アワビ等の種苗の放流を行い，水産資源の維持・拡大に取り組んでいる。しかしながら，水産資源は減少傾向にあり，魚価の低迷，後継者不足等の課題も依然として残されている。

（イ）第２次産業

上甑島では，上甑生活改善センターを拠点に，パッションフルーツなどの地域特産物を利用した加工品づくりに取り組んでいる。

道路，港湾，漁港の整備など公共事業による建設業が主体であり，製造業としては，海洋深層水の取水・充填を行う工場のほか，焼酎，水産加工品等をはじめとする小規模な農林水産物の加工業などがある。

（ウ）第３次産業

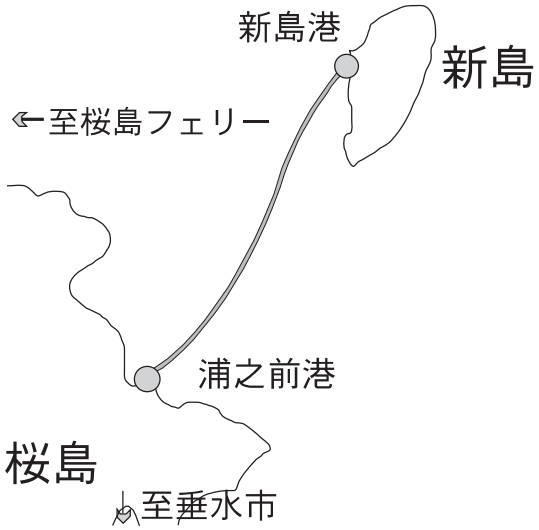
下甑島に航空自衛隊レーダーサイトがあるため，公務の割合が高くなっている。

観光については，国の天然記念物である長目の浜など手つかずの自然に恵まれ，武家屋敷跡の風情ある景観や，新鮮で上質なキビナゴ等の食を楽しめるほか，新たな観光交流拠点整備も進められている。また，ナポレオン岩を間近で見られる観光船のクルーズ体験やダイビング，シーカヤック，キャンプ等の体験型観光を楽しめる。

(4) 新島地域

ア　概況

本地域は錦江湾内の桜島の北東約1.5kmに位置する新島１島からなっており，行政区域は鹿児島市に属している。



イ　自然

新島は，ほぼだ円形をした比較的平坦な島で，周囲は2.3km，面積は0.13k㎡と小さく，土壌は桜島火山の噴出により堆積したシラス土壌である。気候は，一年を通じて温暖であるが，夏秋季には台風の影響を受ける。

昭和39年に霧島屋久国立公園の第２種特別地域に指定され，平成24年の再編成に伴い，霧島錦江湾国立公園として変更指定された。

また，平成25年には，桜島・錦江湾ジオパークが日本ジオパークの認定を受け，新島もジオサイトに位置づけられている。

ウ　沿革

この島は西暦1779年～1780年のいわゆる桜島火山の安永大噴火の際，海底から隆起した島で，その後20年を経過したころから，人々が桜島の赤水集落から移住した。その後人口は次第に増え，昭和26年には56世帯，人口は約250人に達したが，生活の安定を求めて約半数の人々が鹿児島市高免町の浦之前へ移住した。

その後の人口は，平成２年18人，平成７年13人，平成12年12人，平成17年５人，平成22年4人と徐々に減少し，平成25年には最後の住民が島外に転出し，現在は無人島となっている。

エ　交通・通信

本土との交通体系について，本地域と本土を結ぶ旅客定期航路は運行していないが，桜島(浦之前港)～新島(桜島港)との間に市の行政連絡船(定員12名)が１日３往復(15分・週３便（日・水・金)している。

平成３年度までに桜島港（新島地区）の改修事業が完了しており，行政連絡船及び地元漁船の安全接岸が可能となっている。

情報通信基盤については，本地域において光ファイバが敷設されておらず，本土とは海底メタルケーブルにより接続されている。また，本地域ではＡＤＳＬサービスが提供されている。

携帯電話については，近隣の基地局がカバーしており，利用可能となっている。

テレビについては，地上波テレビ放送のデジタル化に伴う「新たな難視」地区は発生していない。

オ　社会環境

（ア）水道・電気

水道については，無人島となる以前は海底送水により安定供給が図られ，また電気についても，海底ケーブルにより一般受電化が実現していた。

（イ）廃棄物処理

ごみ，し尿については，本土への運搬手段及び収集体制がなく，自家処理されていた。

（ウ）福祉

本地域には，利用者数や地理的条件等から老人ホーム等の福祉施設はなかった。

（エ）教育

小学校は昭和47年３月31日に廃校され，児童はスクールボートにより桜島に通学していたが，昭和54年度からは学齢者もいなくなっていた。

カ　産業

農業経営は，土壌がやせていること等から行われていなかった。